

凡例

1. この文献目録は2019年に日本において公表された、ヘーゲルに関する主な文献を可能な限り網羅的に収集しており、日本ヘーゲル学会文献資料委員会・裕智樹・山脇雅夫編「ヘーゲル日本語文献目録(2018年)」の続篇である。
2. 文献の配列は次のようになっている。Ⅰヘーゲル自身の著作の日本語訳、Ⅱヘーゲルに関する研究文献、Ⅲヘーゲルに関する研究文献の書評、Ⅳヘーゲル研究の動向紹介、Ⅴヘーゲルに関する文献目録、Ⅵヘーゲルに関する研究資料。さらにⅡに関しては、A研究書、B雑誌・紀要および論文集掲載論文、C外国語研究論文等の日本語訳の順で三つに区分した。
3. 上記の各分野における文献は著者名の五十音順で配列してある。
4. 各文献のデータ項目は、単行本に関しては、著者名(または訳者名)、題名、出版社の名称、刊行年の順で記載されており、雑誌・紀要等掲載論文に関しては、著者名、論文の題目、掲載雑誌の名称、巻数、号数、刊行年、掲載頁の順で記載されている。巻数・号数に関しては、例えば15巻4号であれば、15(4)と表記した。
5. ヘーゲルに関するものであっても、随筆類、また事典の項目や哲学史関連の著作に含まれる章節、学会発表要旨・レジュメ、新聞記事等は情報収集が困難なため掲載を割愛した場合がある。

Ⅰ ヘーゲルの著作の日本語訳

G・W・F・ヘーゲル、ヘーゲル『論理学』判断論の訳と注解(2)定存在の判断(赤石憲昭訳)、ヘーゲル論理学研究、25、2019、pp. 65 - 103.

G・W・F・ヘーゲル、ヘーゲル『精神現象学』饒舌訳の試み(5)(原崎道彦訳)、高知大学教育学部研究報告、79、2019、pp. 1 - 22.

G・W・F・ヘーゲル、ヘーゲル全集・第11巻(山口誠一ほか訳)、知泉書館、2019.

Ⅱ ヘーゲルに関する研究文献

A 研究書

池松辰男、ヘーゲル「主観的精神の哲学」—精神における主体の生成とその条件、晃洋書

房、2019.

加藤尚武、ヘーゲル哲学の隠れた位相(加藤尚武著作集 第5巻)、未来社、2019.

下田和宜、宗教史の哲学—後期ヘーゲルの迂回路、京都大学学術出版会、2019.

松村健吾、ヘーゲルのイエナ時代—理論編、鳥影社、2019.

山口祐弘、存在の諸相：ロゴスと存在—ヘーゲルの論理思想 第1巻、晃洋書房、2019.

山口祐弘、本質の自己反照：ロゴスと存在—ヘーゲルの論理思想 第2巻、晃洋書房、2019.

山口祐弘、概念の主体性：ロゴスと存在—ヘーゲルの論理思想 第3巻、晃洋書房、2019.

#### B 雑誌・紀要および論文集掲載論文

赤石英人、ヘーゲル市民社会論の物象化論的展開—人倫的基盤としての「事そのもの」と「普遍的資産」、駒澤大学経済学論集、50(4)、2019、pp. 35 - 45.

飯泉祐介、なぜヘーゲルは『精神現象学』の体系的な位置付けを変更したのか、哲学、70、pp. 145 - 159.

池田 喬、アイデンティティ・ポリティクスの再考—米国のカラーフェミニズムと近現代ドイツ哲学の遺産、ヘーゲル哲学研究、25、2019、pp. 69 - 81.

池松辰男、ヘーゲルにおける「幸福」の取り扱い—「実践的精神」から「客観的精神」への移行をめぐる、倫理学紀要、26、2019、pp. 173 - 197.

伊坂青司、世界史への哲学的視点—ヘーゲル「世界史の哲学」講義(一八二二／二三年)を手掛かりにして、思索、52、2019、pp. 1 - 26.

石井基博、「コミュニケーション的自由」と国家—A・ホネットのヘーゲル法哲学解釈の検証、文化学年報、68、2019、pp. 119 - 141.

石川伊織、ヘーゲルの見た絵画—十九世紀初頭における絵画作品の〈移動〉とヘーゲル『美学講義』、法政哲学、15、2019、pp. 13 - 24.

伊藤 巧、ヘーゲルの『デ・アニマ』翻訳、ヘーゲル論理学研究、25、2019、pp. 4 - 6.

今村健一郎、ヘーゲルの所有論、愛知教育大学研究報告人文・社会科学編、68、2019、pp. 79 - 92.

大河内泰樹、多元的存在論の体系—ノン・スタンダード存在論としてのヘーゲル「エンチクロペディ」、思想、1137、岩波書店、2019、pp. 6 - 20.

大澤真幸、〈世界史〉の哲学(114)近代篇(29)ヘーゲルを通じてドストエフスキーを読む、群像、74(5)、2019、pp. 345 - 357.

王寺賢太、ヘーゲルを模倣するフーコー—『狂気の歴史』のラモアの甥論をめぐる、思想、1145、岩波書店、2019、pp. 42 - 66.

岡崎秀二郎、ヘーゲルの二つの無限判断という思想—判断の無意味さに関する一考察、哲学、70、2019、pp. 160 - 175.

岡崎 龍、ヘーゲルとパフォーマンス—『精神現象学』「自己疎外的精神の世界」とジュディス・バトラー、思想、1137、岩波書店、2019、pp. 159 - 174.

岡崎佑香、ヘーゲルと家族史、ヘーゲル哲学研究、25、2019、pp. 41 - 54.

岡本裕一郎、15分で読む生誕250周年を機に、ヘーゲルへの誤解をとく、人文学会ニュース、133、2019、pp. 1 - 14.

沖永荘八、私は有り、私は無いこと—意識と実在をめぐるヘーゲルとW・ジェイムズ、D・ハーディングの見解から、日本健康心理学会大会発表論文集、32(0)、2019、p. 21.

カク・ミンソク、『文明論之概略』における公の再編成と市民社会—福沢諭吉、ハーバーマス、ヘーゲル、社会システム研究、22、2019、pp. 121 - 132.

加藤尚武、論理は論理的に語るができない—ヘーゲル『大論理学』の「弁証法」全用語例、ヘーゲル論理学研究、25、2019、pp. 9 - 50.

川瀬和也、行為者性の社会理論—コースガード・ピピン・ヘーゲル、思想、1137、岩波書

店、2019、pp. 53 - 70.

川瀬和也、ヘーゲルはプラグマティストか？—ブランドムの欲望論と承認論、ヘーゲル哲学研究、25、2019、pp. 10 - 24.

金 哲雄、ヘーゲルにおける始元の論理構造—直接性と媒介、大阪経済法科大学 21 世紀研究、10、2019、pp. 23 - 37.

倉田 貢、絶対知における真理の学—「論理」について—ヘーゲル『精神現象学』から『論理の学』への上昇、東日本国際大学研究紀要、24(1)、2019、pp. 163 - 174.

栗原 隆、色と心—ヘーゲルによるゲーテの『色彩論』の受容をめぐって、シェリング年報、27、2019、pp. 81 - 92.

小島優子、ヘーゲルにおける性差について—『精神現象学』と『法哲学』を中心に、ヘーゲル哲学研究、25、2019、pp. 55 - 68.

小原琢磨、存在・神・論と神の死—哲学の始源をめぐるデリダのヘーゲル読解、哲学、70、2019、pp. 176 - 189.

斉藤 渉、啓蒙と虚偽—ヘーゲル『精神現象学』第IV章Bを中心に、超域文化科学紀要、24、2019、pp. 39 - 50.

斉藤幸平、貧者は承認されうるのか？—資本主義における承認の野蛮化をめぐって、思想、1137、岩波書店、2019、pp. 123 - 139.

佐藤三友、「経験」(Erfahrung)の道程から捉え直す自己形成論—ハイデガーのヘーゲル解釈などをもとにして、同志社女子大学現代社会学会現代社会フォーラム、15、2019、pp. 14 - 23.

篠原敏昭、ラサールにとってヘーゲル主義とは何であったか、理想、702、理想社、2019、pp. 63 - 75.

島崎 隆、マルクスによるヘーゲル哲学批判の再読(中)、唯物論研究、147、2019、pp. 88 - 100.

島崎 隆、拙論「マルクス主義的唯物論の変貌とヘーゲル・マルクス関係の再検討」について、燈をともし、28、2019、pp. 1.

高田 純、ホネットのヘーゲル承認論解釈の問題点(上)、旭川大学経済学部紀要、78、2019、pp. 1 - 26.

竹島あゆみ、「媒辞が自己意識であり、それが両極へ分解する」とはどいいうことか？—ヘーゲル『精神現象学』自己意識章「承認の純粹概念」の再検討、岡山大学大学院社会文科学研究科紀要、47、2019、pp. 17 - 26.

竹島あゆみ、ヘーゲルの「妹」—アンティゴネーとクリステア—、ヘーゲル哲学研究、25、2019、pp. 4 - 9.

永井健晴、イヴァン・A・イリーンとかれのヘーゲル研究について、大東法学、29(1)、2019、pp. 225 - 297.

中川玲子、精神の自己聴取としての音楽—ヘーゲルの音楽美学、文化学年報、68、2019、pp. 143 - 161.

中川玲子、『精神現象学』におけるヘーゲルの芸術哲学(後)、哲学論究、33、2019、pp. 38 - 52.

中村 元、ヘルダーとヘーゲル—インドの歴史的な位置づけをめぐって、慶應義塾大学独文学研究室研究年報、36、2019、pp. 54 - 75.

碓 智樹、ヘーゲル論理学の意味論的解釈—ヘーゲルと分析哲学、思想、1137、岩波書店、2019、pp. 89 - 104.

濱 良祐、憲法と戦争—ヘーゲル国家論における多元性、思想、1137、岩波書店、2019、pp. 140 - 158.

濱 良祐、ヘーゲルにおける「歴史」と「自由」、文化学年報、68、2019、pp. 187 - 210.

福吉勝男、福沢諭吉とG・W・F・ヘーゲル—〈理想主義的現実主義〉の思想、理想、702、理想社、2019、pp. 132 - 147.

堀永哲史、ヘーゲル『大論理学』本質論の始まりにおける媒介論、ヘーゲル論理学研究、25、2019、pp. 51 - 64.

松岡健一郎、ガブリエルの言う「ヘーゲル」が語るもの—ガブリエルのマクダウエル批判、文化学年報、68、2019、pp. 163 - 185.

松岡健一郎、ジョサイア・ロイスの場合—古典的プラグマティズムとヘーゲル、ヘーゲル哲学研究、25、2019、pp. 25 - 34.

松村健吾、発酵の時代から誕生の時代へ—ヘーゲルのイエナ時代、大東文化大学紀要・人文科学、57、2019、pp. 161 - 177.

松村健吾、ヘーゲル『精神の現象学』の生成の時期について、教育学研究紀要(大東文化大学)、10、2019、pp. 1 - 16.

三重野清顕、シェリングとヘーゲルの差異をめぐって—ヘーゲル批判への応答可能性を探る、思想、1137、岩波書店、2019、pp. 105 - 122.

三重野清顕、イエナ期フィヒテの「衝動」概念とその後の展開—ヘーゲル哲学の形成史との関連において、フィヒテ研究、27、2019、pp. 37 - 50.

南郷継正、全集第三卷ヘーゲル哲学・論理学(学の体系講義・新世紀編)余録、学城、18、2019、pp. 9 - 23.

嶺岸佑亮、ヘーゲル論理学における《純粋な知》の問題と新プラトン主義、ヘーゲル哲学研究、25、2019、pp. 82 - 97.

山口誠一、ヘーゲル『精神現象学』「序説」第38節~第41節の解明、法政大学文学部紀要、79、2019、pp. 1 - 13.

山口祐弘、哲学のイデアリスムと存在の理念—カントとヘーゲル、思想、1144、岩波書店、2019、pp. 86 - 104.

山口祐弘、充足理由律と因果律—ヘーゲルの真実真理論、ぷらくしす、21、2019、pp. 91 - 102.

山田有希子、ドイツ観念論およびヘーゲル哲学における「生命」概念—「生命とは何か」という問い自体を問いながら、哲学、70、2019、pp. 106 - 122.

悠李真理、哲学・論理学研究余滴(8)—ヘーゲル『哲学史』をふまえてアリストテレスの“思弁”への端緒につく過程を考える(2)、学城、18、2019、pp. 58 - 74.

吉田 達、無限判断は無限性とどのようにかかわるか—あるいはヘーゲル『精神現象学』におけるディドロとヤコービ、中央大学論集、40、2019、pp. 71 - 83.

吉田博司、たたかうエピクロス(第2回)預言者ベンサムと対抗預言者ヘーゲル、Will、177、2019、pp. 184 - 189.

和田千春、フェノロサの雪舟論にみえるヘーゲルの絵画論の受容と展開—作品論とその評価を中心に、Lotus、39、2019、pp. 43 - 51.

### C 翻訳

アレクサンドル・コイレ、ヘーゲルの言語と専門用語についてのノート(小原琢磨訳)、知のトポス・世界の視点、14、2019、pp. 83 - 153.

ジュディス・バトラー、欲望の主体—二〇世紀フランスにおけるポスト・ヘーゲル主義(大河内泰樹ほか訳)、堀之内出版、2019.

ジョルジュ・カンギレム、フランスにおけるヘーゲル〔抄訳〕(丸山真幸訳)、津田塾大学紀要、51、2019、pp. 169 - 179.

ジョン・マクダウェル、統覚的自我と経験的自己—ヘーゲル『精神現象学』「主人と奴隷」の異端的解釈に向けて(村井忠康訳)、思想、1137、岩波書店、2019、pp. 21 - 42.

マルクス・ガブリエル、ヘーゲルにおけるカテゴリー問題(真田美沙訳)、思想、1137、岩波書店、2019、pp. 71 - 88.

ルートヴィヒ・ジープ、ジープの承認論(山内廣隆訳)、こぶし書房、2019.

### III ヘーゲルに関する研究文献の書評

赤石憲昭、評論(二)：竹島あゆみ著『承認・自由・和解—ヘーゲルの社会哲学』、ヘーゲル哲学研究、25、2019、pp. 129 - 133.

片山善博、図書紹介：G・W・F・ヘーゲル著『美学講義』(寄川条路監訳・石川伊織・小川真人・瀧本有香訳、法政大学出版局、2017年)、法政哲学、15、2019、pp. 69.

久保陽一、ヘーゲル論理学研究文献紹介：ライナー・シェーファー著『ヘーゲルの論理学における弁証法とその特殊な諸形式』、ヘーゲル論理学研究、25、2019、pp. 167 - 176.

佐山圭司、評論(一)：竹島あゆみ著『承認・自由・和解—ヘーゲルの社会哲学』、ヘーゲル哲学研究、25、2019、pp. 125 - 128.

高田 純、大田孝太郎著『ヘーゲルの媒介思想』、唯物論研究、147、2019、pp. 134 - 137.

濱 良祐、評論(三)：竹島あゆみ著『承認・自由・和解—ヘーゲルの社会哲学』、ヘーゲル哲学研究、25、2019、pp. 133 - 137.

保呂篤彦、下田和宜著『宗教史の哲学—後期ヘーゲルの迂回路』、宗教研究、93(3)、2019、pp. 225 - 297.

#### IV ヘーゲル研究の動向紹介

飯泉祐介、復活するヘーゲル形而上学、思想、1137、岩波書店、2019、pp. 43 - 52.

川口浩一、日本におけるヘーゲル刑罰論研究の最近の動向、ノモス、45、2019、pp. 35 - 61.

真田美沙、国際学会報告：世界女性ヘーゲル研究者会議、ヘーゲル哲学研究、25、2019、pp. 138 - 141.

#### V ヘーゲルに関する文献目録

碓 智樹・山脇雅夫、ヘーゲル日本語文献目録(2018年)、ヘーゲル哲学研究、25、2019、pp. vii - xi.

#### VI ヘーゲルに関する研究資料



